

意見書（案）第11号

一日も早い国立劇場の再開を求める意見書

上記の意見書（案）を別紙のとおり提出する。

令和7年3月27日

三鷹市議会議長 伊 藤 俊 明 様

|     |         |         |
|-----|---------|---------|
| 提出者 | 三鷹市議会議員 | 紫 野 あすか |
| 賛成者 | 〃       | 大 城 美 幸 |
| 〃   | 〃       | 前 田 ま い |
| 〃   | 〃       | 栗 原 けんじ |

## 一日も早い国立劇場の再開を求める意見書

東京半蔵門にある国立劇場は、歌舞伎、文楽、日本舞踊、邦楽、雅楽など、日本の伝統芸能を発信する拠点として、1966年の開場以来、多くの人に愛されてきた。しかし、老朽化や設備の古さなどを理由に建て替えが決まり、2023年10月、57年の歴史に幕を閉じることとなった。

当初は、2016年11月に国立劇場等大規模改修基本計画が発表され、国費で改修して使い続けることを文部科学省は決めていた。この改修プランでは、2020年までに再オープンできる計画であった。しかし、2019年9月に文部科学大臣に就任した萩生田光一氏の下、2019年10月に、国立劇場再整備に関するプロジェクトチームが設置され、2020年7月に、国立劇場の再整備に係る整備計画策定に向けた基本方針が策定された。劇場を改修して使い続けるという従来の方針を覆し、PFIによって建て替えることとなった。この計画は、劇場機能に加え、オフィスやホテルを併設する高さ74メートルの巨大な複合ビルを新たに建設するというものである。ところが、人件費や資材の高騰などで入札の辞退が相次ぎ、2度にわたり不調となり、先行きも見えないまま1年もの間放置されたままである。

国立劇場は、正倉院などで見られる校倉造りをモチーフにした建造物として建築家や美術家からも評価が高い。格調高い国立劇場を未来につなぎ、伝統文化を発信していくべきである。そのためにも、PFIによる建て替えを見直し、当初の計画に戻すことが必要と考える。昨今の建設費の高騰などの状況を踏まえると、PFIによる建て替えの事業者選びは難航し、今後も迷走することが予想される。有識者からは、PFIだけに頼るのは厳しい状況だとの声も上がっている。これまで劇場を利用していた伝統文化、芸術に携わる人達は、劇場が使えず公演ができなくなったことで演奏者や裏方の廃業が増えており、このままでは日本の芸能全体が衰退しかねないと強い危機感を抱いている。伝統文化の灯を絶やさず、広く世界へ発信していくための大切な場所である国立劇場を再開させることは急務である。

よって、本市議会は、政府に対し、PFIによる国立劇場の建て替え計画について一旦立ち止まり、当初の予定どおり、国費による改修により一日も早い国立劇場の再開を求める。

上記、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。

令和7年3月27日

三鷹市議会議長 伊藤 俊 明